

令和4年度 自己評価報告書



2023年4月1日

■ 園の概要

当園は、埼玉県越谷市に昭和47年4月に学校法人として開園しました。

長年、産業道路沿いの「ピンク色の幼稚園」として子ども達の目ひく園舎にて幼児教育を行ってきました。平成25年4月、園舎の老朽化や交通量の多い道路事情を考慮し、よりよい教育環境をめざし川柳町へ移転、新築いたしました。

待機児童の増加という現在の子育て事情を鑑み、「少しでも、地域の子育て環境を良くしたい。」との思いから、保育園部門を設置し「認定こども園」として同年開園致しました。

平成27年「子ども子育て新制度」に伴い、幼稚園部門・保育園部門が統一され、新たなスタートを切っております。

■ 本園における園評価のねらい

学校評価を実施することにより、より良い保育や園行事・園運営の充実に生かしていきたいと考えております。職員の自己評価や、外部の皆様に意見を出して頂くためのアンケート調査を行い、前年度よりも内容の濃い園評価を実施していきたいと思っております。

学園理念

【教育目標】

つよい体やさしい心の子どもに育てる。

【保育目標】

家庭的保育かつ集団生活における教育の中で一人一人がいきいきとした生活を送る。

【経営理念】

子ども・保護者・教職員に対するサービス心の経営。

基本方針

総合的な経験や具体的な活動を通して、情緒の安定した安全な生活を送り、心身の健全な発達を図る。子育て付加事業により、保護者の思いをサポートしながら、子育て環境の活性を図り社会的役割を果たす。

教育目標

- 一、心身共に健康で明るい子ども
- 一、がまん強く、頑張りのきく逞しい子ども
- 一、優しく素直で、思いやりのある子ども
- 一、ご挨拶の出来る子ども

保育の計画性

- 学園理念や保育・教育目標
- 5領域 10の姿の理解
- 指導計画の作成
- 環境構成
- 評価・反省

【目標・取り組み】

- クラスで高月齢と低月齢の差があるので、1人1人の子ども達の発達状況に合わせて、丁寧に保育を進めていく。
- 子ども達の何を育てたいかを、「10の姿」を頭に入れながら考え計画性のある保育をする。
- 可視化し、PDACを生かし実践する。
- 子ども達の園生活における連続性、多様性に十分配慮し、継続的に信頼関係を築いていく。
- 日々の保育・子どもとの関り方に対してしっかりと計画を立て、実践に移す前にも頭で考えるよう心がけ、自分の保育に自信をもって楽しく保育していきたい。
- 一人ひとりの発達や子ども達の共通理解を深められるようにする。
- 見通しをもって計画を立て、一つ一つの保育活動に目的をもつ。
- 保育の振り返りを大切にし、反省や考察をし、日々の保育に活かせるようにする。
- 教育要領と教育課程を常に念頭に置き、保育の振り返りと計画を立てる。
- 行事が終わったあとに、きちんと見直しをし、次に活かせるようにする。(日々の保育も同様)

【よく出来たこと】

- 1人1人の子どもの発達を把握し、担任同士で日々話し合いをしながら適切な援助を行うことができた。
- 季節を感じられるように季節や行事にあった紙芝居や絵本を沢山読むようにした。
- クラスに掲示し、思い出せるように努めた。計画を立て進めていく事が出来た。
- 毎日の保育の繰り返しの生活リズムにより添い一人ひとりの発達段階に注視し、関わる事が出来た。
- 保育室を清潔に保つことができた。
- 子ども達の様子を見ながら、その日の活動を変更したり、休憩を入れたりした。
- 月案を見ながらも学年で話しをし追われないように工夫した。
- 必要に応じて、巡回の方とも相談しながら、子ども達一人ひとりに合わせた保育を心掛けた。

【課題と思ったこと】

- 保育の内容を日々試行錯誤し、新たな試みを取り入れつつ、次年度の保育に生かしていきたいと思う。
- 見通しをもって保育をしていく中で、臨機応変に対応する。
- 反省までしているが、計画の内容によっては次に活かす事が出来ないことがあった。
- 季節に応じた環境構成を考えて、一人ひとりの発達状況に合わせて工夫して行っていきたい。
- 子ども達に経験させてあげたいアイディアは、沢山浮かんだが、時間に追われてしまい、十分に行えなかった。
- 見通しを持って保育をしていく中で、臨機応変に対応する。
- 保育中には考えられなかったことが、記録を振り返ることで気づけることがあった。
記録は今後も続け、冷静に考える力をつけていきたい。
- 片付けやオムツ替えなど、一つの事柄に意識を集中させてしまうと、見えてない場所ができ、問題が起きる時もあったので、保育にあたる先生方と協力して保育にあたる必要があると感じた。

<p>保育の在り方</p> <p>こどもへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 健康と安全の対応 □ 子どもとの信頼関係 □ 保育者同士の協力・連携 □ 支援を必要とする園児への取り組み
<p>【目標・取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 保育者同士で話し合いながら、連携を取り、子ども達を見守り、安全面に気をつけていく。 □ 子どもとのスキンシップを密にとり、信頼関係を築いていく。 □ 個と集団の工夫（個人差がある中でどのような保育をしていくか） □ 子ども、職員とのコミュニケーションをとり、情報を共有しながら援助する。 □ 支援を必要とする園児への個々の発達にあった、よりよい保育の実践につなげられるようにしていく。 □ 各年齢やクラス、それぞれに必要な対応を考え、安全に配慮しながら、他の保育者と協力し保育を行う。 □ 一人ひとりの発達に見合った、言葉掛けや援助を心掛けていく。 	
<p>【よく出来たこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 子ども一人ひとりの動きを把握する為に視野を広げ、危険なケガにつながりそうな時には、保育士同士で声をかけあって、すぐ対応できるように側で見守った。 □ 子ども一人ひとりの性格を把握し、気持ちが下がった時等にその子に合わせて対応することが出来たのは良かった。支援を必要とする園児には上司に相談し、保護者に伝えることができた。 □ 学年間では密にコミュニケーションを取り連携を計った。巡回等もあり、支援のあり方について相談ができた。 □ 子どもの表情や態度から理解度をくみ取り、言葉の形成への手助けや方法を丁寧に伝えていく事ができた。 □ 関心のある物を口に入れ、確かめようとする乳児の特性には十分配慮し、安全面や衛生面には特に留意した。 □ 個人差がある中で、友達との関係が良好であることもあり、子ども達で助け合う良い関係性が出来ていた。 □ 低月齢児、高月齢児と成長に差がある中でも自分で身の回りのことを行おうとしている園児に対して、気持ちを受け止め必要に応じて援助することができた。 □ 子ども達の思いを受け止め、丁寧に関わりをもつようにした。 □ スキンシップを沢山とりながら、愛情を沢山注いでゆったりとした雰囲気の中で楽しく保育できた。 □ 当番活動でのインタビューで朝ご飯を聞くなどして、健康についても触れていき、一人ひとりの性格を見ながら声の掛け方も変えていった。 	
<p>【課題と思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 一人ひとりと話をしたりするが、じっくりと関わることができずバランスが難しかった。（支援を必要とする子どもの方ばかりになってしまう） □ 子どもの主体性をどこまで受容できるのか、伸ばしていけるのか、支援を必要とする子だけでなく、一人ひとりの良さを報告、伝え合う場を広げたい。 □ 個をとらえつつ、全体をとらえるということに、難しさを感じた。 □ 保育者全員が共通理解できるように、よりより具体的な援助方法を話し合い、実践につなげられるように努めていきたい。 □ 子どもによっては、苦手なことが負担に感じてしまった時期があった。 □ 密に支援ができず継続的にコミュニケーションをとることができなかつたため、上手く関わっていくことが課題 	

保育者としての 資質と能力

- 専門家としての能力・姿勢・義務
- 組織の一員としての在り方
- 保育の楽しみ・喜び

【目標・取り組み】

- 自分の役割、すべきことを理解し責任を持って行う。
- 子ども一人ひとりの発育をしっかり把握し、適切な玩具や遊びを提供していく。
- 幼児保育についての新しい知識を得ながら、より深められるようにする。
- 一つひとつの活動を楽しみながら、子ども達のやりたい！という気持ちを引き出す。
- 他の先生方とのコミュニケーションを大切にし、報告・連絡・相談をしっかり行っていく。
- 自分のことだけでなく、周りをよく見て行動する。
- ポジティブに捉え、学びの姿勢を忘れず発信する。
- ゆったりと子どもの成長を見守り、必要な補助、言葉掛けを考え工夫する。
- 保育者間における連携を大切によりより保育の実践につなげていく。

【よく出来たこと】

- 担任2人で書類などを分担したり、互いに考え話し合いで物事を決めるなど工夫して、進めていったことで抜けることなく取り組むことができた。
- 年齢に適した運動遊びや製作はどんなものがあるのか、保育雑誌やインターネットで調べてスキルアップできるよ意識して行った。
- 幼児での行事や生活の流れなどを理解し、ミスに気をつけながら保育することができた。
- 一つひとつの活動を子ども達と一緒に楽しみ、盛り上げることができた。
- 乳児組の先生方と情報交換しながらコミュニケーションをとり、行事や普段の保育等、上手く取り組むことが出来た。
- 気づいたことがあればすぐに伝えようとしたり、行動しようとした。学年で話す中でいいと思ったことを共有したりと楽しみを見つけたりした。
- 子どもの姿をありのまま受け入れ、どう向き合っていくか考え、保育に生かしていった。
- 出来るだけ俯瞰して全体を見られるように務めてきた。
年齢に応じて、一緒に遊んだり、遊びの補助、言葉掛けをしながら子どもの成長を感じることができた。
- 担任の先生が求めている補助を時と場面をよく考えながら、適切に遂行できるように常に意識した。

【課題と思ったこと】

- 提出物の提出期限がギリギリになってしまうことが多かった。
取り掛かることが遅い事が原因と考えられる。聞いた後にすぐ取り掛かり、期日前日には出来上がっているように心掛けていきたい。
- 手作り玩具を作る時間が取れなかったため、次年度は少し手作り玩具を用意し、あたたかみのある玩具を増やしていきたいと思う。
- 保育で精一杯なことも多く、自分自身も気持ちが不安定な事が多かった。
- 遊びに関してもう少し種類を増やし、発達に合った取り入れ方をしていきたい。
- 乳児組以外の先生方、職員とは余り関わりを持つ事が出来なかったように思う。
- 時折、自分のことしか考えられていないことがあった。(行事前など)
- ポジティブな捉え方をもっと職員間で広めたい。
- それぞれのクラスの特長やクラス担任の考え方などを重視しながら子どもに対する対応をもっと工夫していきたい。
- 子どもの満足感、達成感と同時に決まり事や、道徳性の指導の観点も忘れないよう、意識の確認をする必要がある。

保護者への対応

- 情報の発信と受信
- 守秘義務の遵守
- マナー・心構え
- 要望への対処の仕方

【目標・取り組み】

- 連絡ノートやお迎えの際に、日々の子どもの様子を伝え、信頼関係を築き、家庭の悩みなども解決できるよう連携を計っていく。
- 保護者と連携して子育てをしていく為に、園の方針や保育の意図を保護者に伝える。
- 伝え忘れの無いようにしたり、細かく伝えることを意識し、保護者に分かりやすい言葉を心掛ける。
- 保護者に信頼感を得られるような話し方、表情、立ち振る舞いをする。
- 子ども様子をこまめに伝えると共に保護者と情報交換しながら積極的にコミュニケーションをとる。
- 丁寧な言葉遣いと気持ちの良い対応を心掛ける。
- 日頃から子どもの様子を伝えたりして、コミュニケーションをとる。
- コミュニケーションを密にとり、子どもの様子を詳しく伝えていく。
- 保護者の思いを受け止め、不安や気になっている事を担任にしっかり伝え、解決に向けて、手助けしているように務める。
- 送迎時の短い時間でも言葉を交わし、より信頼関係を築けるように、挨拶+一言を大切にしていきたい。

【よく出来たこと】

- 出来るだけ連絡ノートを活用し、様子を伝えるよう心掛けた。
- 懇談会や面談で日々子ども達の様子を伝えることができた。
- 保護者の気持ちに寄り添いながら、体調確認の電話等の対応した。
- 質問などは、あいまいにせず、確認を取ってから答えるようにした。
- 子ども様子を出来る様になった事など、保護者に細目に伝え、喜びを共有できた。
- 保護者とお話することで信頼関係をしっかりと築くことができた。
- 保護者と対面で話す際や連絡ノートでのやりとりでも丁寧な言葉遣いを心掛け対応する事ができた。
- 学年や上司にすぐに報告し合ったり、話し合う時間を作った。
- あった出来事など、保護者にこまかく伝えることができた。
- 保護者からの話を担任に伝え、その後の様子なども聞き、経過を気にかける事ができた。
- 保護者との関りが少なかったが、会った際は、明るく挨拶を交わす事を心掛けた。

【課題と思ったこと】

- 直接会って、子どもの様子を伝える機会がとても少なかった。
- 分かりやすく伝えられる書類作成。(レジュメが分かりづらいと感じた。)
- 園のシステムを頭に入れ、質問されたことに対してすぐに答えられるようにする。
- 状況に応じて柔軟に保護者への対応が出来なかった。
- 少人数ということもあり、保護者とのコミュニケーションも密にとることが出来た。
- 自分の中で分かっていることを保護者から問われた際には、すぐに答えることができたが、頭に入っていないことを聞かれた際にすぐに答えることができなかった。書類などに目を通し、確認をするなどして不快な思いをさせることのないようにしたい。
- 報告し合ったり、話す機会を作るがその結果どうなったかを話す場が少なかったと思う。
- 保護者の思いを上手く引き出すことができるようにする。
- 伝達の伝え忘れもあったので、しっかり伝えるようにする。
- 保護者が安心して子どもを預けられるように、クラス担任との連携をとってメモをとるなどして、自分なりに忘れない工夫をする。

<h2>研修と研究</h2>	<ul style="list-style-type: none"> □ 研修と・研究への意欲・態度 □ 保育士としての専門性に関する研修・研究 □ 今、自分に必要な課題に関する研修・研究
<p>【目標・取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 保育者同士でももっと共有したり、意見を出し合って、よりよい保育が出来る様にした。 □ 身につけたい知識、興味のある研修に積極的に参加する。 □ 研修や本を読んだり向上心を忘れないようにする。 □ キャリアアップ研修に参加し、しっかりと学び周知できるようにする。 □ 子どもの運動機能が発達するように音遊び（リトミック・体操など）を保育の中で取り入れていく。 □ 自分の苦手な事に興味を持ち、得意になるよう挑戦していく。 □ メモをしっかりと取って、今後の保育に活かしていく。 □ 積極的にキャリアアップ研修に参加し、新しい知識を身に付け、他の保育者へ共有できるよう発信していく。 □ 必要な能力や技術に関して知り、積極的に研修へ参加する。 □ 自己学習や研修で学び、保育者としての意識を高めていけるよう努力する。 □ 社会的事象や変化にも関心を持ち、よりよい保育の知識を取り入れていく。 	
<p>【よく出来たこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 園内研修に参加し、保育のことや、子どものことなど、普段の会話では気づかなかった保育の考え方に触れることができ、自分自身の保育の考え方の幅が広がった。 □ 保育雑誌を読んだり、ネットから知識を得ながら、保育に生かすことが出来た。 □ 気になったことを調べたりすることは出来た。 □ 巧技台やフラフープ、マット、滑り台などを用意して、おもいつきり体を動かして機能を高められるような保育をすることができた。 □ 吸収したものを、リトミックの細かい所（つまさきを伸ばす等）を伝えていくなどし、活かして進められた。 □ ZOOM を上手く活用しながら、キャリアアップ研修を全科目受講する事ができた。 □ 必要な能力・技術が沢山あることを知り、それに合った研修を受講する事ができた。 □ 分からないことを聞いたり、調べたりして、知識を高めようと努力した。 □ 発達過程の問題や情報などを担任に質問するなどし、分からない事をその場で確認し、保育に活かしていくことが出来た。 	
<p>【課題と思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 自分の欠点をいつも気にとめ、保育者間で意見を出し合ってよりよい保育が出来る様になりたい。 □ 他にもたくさんの研修に参加する。 □ 行きたい研修の日程が合わず、なかなか行けなかった。もっと色々な事に興味を持っていきたい。 □ 音遊びは、おゆうぎ発表会の前後に取り組んでいたが、それ以外は取り入れなかったもので、通年、音遊びを楽しめるような保育を計画していきたい。 □ 自分で行きたい研修に、早めに行けたら良かった。 □ キャリアアップ研修で習得したことを全て実践できてはいない。 □ 研修で学んだ事を実践して力にしていけること。 □ 研修で学んだ事など、自身がなく、取り入れられない事もあった。 □ 限られた時間の中で製作物を共同準備をする中で細かい所まで確認する重要性和、他の保育者への引き継ぎも分かりやすくしていくことが大切だと感じる。 	

以上